

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花神荘
(ユニット名)	フルーツ館
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県・肝付町
記入者名 (管理者)	記入者: 宮脇直高 (管理者: 染木公子)
記入日	平成 20 年 9 月 23 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを 支えていくサービスとして、事業所独自の理念 をつくりあげている	その人が一つの家族として、地域の中で生活して いくことが出来るようにホームの理念をつくって いる。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践 に向けて日々取り組んでいる	理念に基づいた取組みができるように日々励んで いる。	○ ホームの事業計画に取り上げ、皆で理念 を共有しながら日々努力している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続ける ことを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に 理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の人に理解して貰えるように、毎月の グループホーム便りや家族への手紙へ掲載した り、周囲の振興会の総会へ出席の時に理念やホ ムの状況などを公表しています。	○ ホーム便りに掲載し配布したり、家族の 集いで繰り返し広報している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をか け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような 日常的なつきあいができるように努めている	近所隣家との朝晩のあいさつや声掛けを行っ たり、振興会長と話をしながら日常のお付き合 いをさせてもらっている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員とし て、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加 し、地元の人々と交流することに努めている	月1回は振興会長宅を訪問し、振興会長と連絡を とりながら自治会の行事、子ども会の行事など 地域の活動に参加し交流を行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で活用できるものがあれば、利用してもらえるように呼びかけしています。振興会の集まりでもグループホームで出来ることがあれば協力することを積極的に呼びかけ、敷地内の駐車場など近隣・隣家の方が利用されています。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	現状を見直すよい機会にしているが、そのことに重視することで、利用者の処遇や日常の業務に支障を来たす様にはしていない。	
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域資源・サービスの情報提供をもらったり、サービス提供の現状を報告する事で助言や指導をもらい見直すことができる。	
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	担当者や運営委員のみでなく、気軽に市町村へ出向いたり連絡を取りながら相談をしたり資料を頂いたりしている。	
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や成年後見人制度の研修を受け学ぶ機会があります。しかし、現在のところ対象者はおりません。	
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会、ホームの職員研修会で虐待防止法について話し合っています。また、日頃も注意をはらい虐待の防止につとめている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事項に対しては納得ができるように説明しています。また、契約に関する事項でその内容の変更があった場合は、その都度家族へ文書を出し同意をもらっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見はその都度聞きながら、お茶の時間や職員会議で話し合いを行い早急に改善ができるように努めている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームの便りを発行し、個人は面会のときや支払いの時などに報告する。金銭管理については、定期的に残高証明を発行し家族に確認書をもっている。緊急の場合は、その都度連絡し必要時は来園・付き添いをもらう。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や外部者、地域の方からの意見がある場合は連絡して貰えるように便りや運営推進会議にて繰り返し通達している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に、職員の意見が反映できるように心がけている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月の行事や、その時の状況により柔軟な対応ができるように、勤務体制の調整につとめている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職のときは、認知症介護経験者や引継ぎの期間をもうけ利用者のかたへ迷惑のかからないように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会やホーム内の職員会議、市町村・郡・県の研修会へ参加する機会をつくっている。	○	ホーム内の職員会にて、研修発表・計画を立てて実施しています。外部での研修参加者は、ホーム内で検収報告をしています。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム従事者が集まり、研修会や交流を図る場へ参加している。また、町内・町外のホームや施設と連絡を取ったり訪問をしながら情報交換をし、職員間で紹介をしながら質の向上につながるよう取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間で悩みがないか話し合いを通じて解決、軽減できるように努めている。必要な場合には個々に悩みや相談を受けより良い方向へ向くように取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう努めている	運営者は、個々の段階に応じて交代で研修を受けたり資格を取得できるような取組みに入っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人と面会をしながら、少しずつ顔馴染みとなり心配事や、困っていることを受けることで本人の不安解消ができるよう取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所申込時や、ホーム見学の際に心配事や、困っていることを受ける機会をつくっている。また、関係者より情報収集をしながら不安解消ができるように取り組んでいる。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が必要な支援について相談があるときは提供方法などについて話を聞いている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に本人や家族と面談し自宅訪問やホームの見学や体験利用をしながら徐々に馴染まれるように工夫している。新たな環境に徐々に馴染まれるように他者・職員と雰囲気をつくり話し合いをすすめるよにしている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に過ごすことで、人生の大先輩として学ぶ姿勢や支えあう関係づくりをしている。利用者から学ぶことも多い。また職員も支援をしながら支えあいの関係ができるように過している。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	困っていることや、心配事に対して協力関係が出来てできるだけ家族の状況を考慮して迷惑にならないようにしている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と本人の生活歴や関係を知ることで、本人・家族が良い関係が続くようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	心に残っている場所、自宅・家族宅への訪問や行きつけの場所や店など、できるだけ個別に支援している。例えば、いとこ宅や地域の商店、馴染みの美容室へ出かける。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	十人十色で個々の生活も違うので、時にはトラブルになることもあるが、利用者同士が険悪な関係にならないように、嫌われる雰囲気や兆しが見えたときは、間に入り話し合いをしたり少し距離を置いたりはどの配慮をしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院や他施設へ入所されても、できるだけ面会に行き馴染みの関係が薄れないように取り組んでいる。また、退所後も家族から農作物などの頂き物があったり遊びに来られたり、連絡がきたりのお付き合いがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の話を良く聞きながら、その時の仕草や表情など観察しながら本人の思いを尊重しています。本人本位に検討しています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人へ尋ねたり、家族からの情報収集によりこれまでの生活歴の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の現状が総合的に把握できるようにつとめている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族・関係者に担当者会議や面会時に話を聞きながら、より良い生活ができるように課題をみつけケアのあり方について介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直しや継続性をもちながら、本人と家族と話しながら現状に即した計画を作成している。	
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活記録については個々に記録を行い、気づきや言葉書けなど共有しながら日々の支援へ反映している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時の要望により実現ができるようにしている。オンコールや自宅訪問、墓参り、買い物ができるように公用車2台にて支援している。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の学生ボランティアや、隣家・地域振興会・消防などの協力をもらいながら、またホームからの協力をもらいながら協働している。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者との連絡や話し合う機会もあり、情報収集や連携を図っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターへの訪問や、包括職員の来園も定期的により情報交換や連絡をとりながら、ホームの現状をその都度公開し連携を図っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族とともにかかりつけ医への受診や説明をもらっている。協力医療機関との関係ができており、必要に応じて往診や夜間・緊急時の連絡ができています。また、医師からの直接連絡がありその時の個々の様態や状況を聞かれ報告することができる。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、専門医の紹介状をもらい専門機関の受診ができるように支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者と馴染みの看護職や婦長さんと連絡や相談をしながら、日常の健康管理には充分注意し、異変があり場合も即時病院受診ができるように連携を図っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時は必要な治療期間のみで本人・家族の要望を考慮しながら、早期退院ができるように面会や医療相談員と連絡・情報交換しながら退院できるようにしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期のあり方については医師からの説明や家族とよく話し合い、今後のよりよい方針を話し合っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合は、かかりつけ医・家族と職員とよく話し合い、できること・できないことを明確にしながらいより良い支援が出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ 移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者 間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替 えによるダメージを防ぐことに努めている	家庭からホームへ、ホームから病院へ施設へと移 る場合は関係者で十分な情報交換をしながら、住 み替えによるダメージを防ぐことにつとめている 。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるよ うな言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り 扱いをしていない	プライバシーを損ねないように気配りや声掛けを を行い、入浴や排泄の支援には特に配慮している。 その中でも自由に出入りが出来るように開放的な 感じで生活されている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけた り、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決 めたり納得しながら暮らせるように支援をして いる	利用者の意見や希望に沿った支援が出来るよう にしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではな く、一人ひとりのペースを大切に、その日を どのように過ごしたいか、希望にそって支援し ている	日課は決まっているが、一人ひとりのペースを尊 重している。朝食は起きられるまで待ち、就寝も 眠くなるまでテレビを観たり、会話をしたりされ ている。入浴も毎日入られるように支援してい る。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援し、理容・美容は本人の望む店に行け るように努めている	昔から行きつけの美容室や店など、本人の意向を 聞きながら身だしなみやおしゃれが出来るよう に取り組んでいる。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとり の好みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好を聞きながら毎日の調理をしています。その 日の状態に応じて食事準備をしたり、野菜きりや 下準備・茶碗洗いをしている。声掛けしても拒否 される場合もありその時の状況を見ながら支援し ています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好や希望に応じています。今のところ喫煙者、飲酒をされるかたはおられません。	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの力やペースで排泄ができて、オムツの使用や失敗が減るように声掛け・誘導をして支援しています。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しみにしている方が多く、毎日入浴が出来るように支援しています。入浴を拒否される方は、清拭や更衣をしながらタイミングを見て入浴されるように取り組んでいます。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の自由に休息ができた、眠りができるように習慣に応じて支援しています。	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	エレクトーンを持ち込まれ毎日弾かれたり、習字を書かれたり読書や新聞読みなど楽しみや気晴らしが自由に出来るように支援している。	
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持は自由にされています。本人の希望にて買い物に使われたり、家族の面会時にやり取りされたり自由にされている。	


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に戸外へ出られます。町内のスーパーや馴染みの美容室や、靴屋など個別に外出できるように支援をしています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期的に普段は行かないような場所の希望を聞きながら、ドライブや遠足に出かけています。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の話の聞いたり、心配がある時は本人から電話をかけたり、定期的に家族から電話がきたり取り次いでいます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人の方の訪問も歓迎し、次回も気軽に訪問されるような挨拶をしたり、居室や共有スペースで過されるようにしています。訪問者も昼・夜間いつでも自由に来られています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の全体研修会やホームの研修会にて身体拘束について学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけないケアを行っている。居室や玄関は鍵をかけず自由に出入りをされている。事務所・職員控え室より玄関では入り口がガラスでよく見えており利用者の動きが分かる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して利用者の行動・所在を確認しながら声掛け、誘導・見守りを行っている。出来る限りの安全面に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	貴重品や注意の必要な物品の保管を行っている。また、危険なものや刃物類など個々の状態により、危険を防ぐように支援している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の事故防止に取り組んでいます。全職員の救命救急の受講や防災避難訓練・指導を受け学んでいます。ですがやむ終えない事故や怪我もあります。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全職員にて応急手当法や救命救急講習の受講を受け、利用者の急変時や事故発生時に備えています。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災避難訓練を昼・夜間を想定し訓練しています。また地域の分団・振興会長との連携・消防署への訓練・指導を受けながら、協力がもらえるようにしています。	
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	リスクについては家族へ充分説明し了解を貰いながら支援しています。また、抑圧感のない過し方が出来るように日頃から心がけ取り組んでいます。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は皆で観察しながら、かかりつけ医と連絡を取りながら、必要な時は家族へ連絡し同伴にて受診し、早期の対応ができるように取り組んでいる。かかりつけ医が近くにあり早期の受診・治療ができています。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬や管理については支援をしている。変化については医師・薬剤師の説明を聞きながら記録・情報の共有ができるように支援している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘については医師へ相談したり、飲食物や運動をするように支援している。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアや洗浄ができるように支援をし、難しい方は介助しながら口腔清潔に取り組んでいる。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養補給や水分補給ができるように支援し、定期的に採血検査を行いながら家族へ報告し、毎月の体重測定による増減や摂取状態を医師と情報交換し指示を受けながら支援している。	
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症は流行時に対応し、インフルエンザの予防接種も行いながら感染予防につとめている。感染もない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎月の全職員の検便の実施。台所の清掃や包丁・調理器具の消毒殺菌・購入などしながら衛生管理に注意している。また、食材は毎日買い物を行い新鮮なもの・食材を使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	特に工夫はしていないが、段差や階段もなく普段自由に出入りされています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋の周りにはホールがあり、たたみ間やソファもあり自由に好きな場所で過されている。光や日差しが強い場所は日よけを設置し、心地よく過されるように取り組んでいる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間はテーブル椅子・ソファ・畳間とあり居場所は時間により大体一定しています。自由に行き来され気のあった方や時にはひとりで過されています。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	常備してある、ベッド・タンス・クローゼットの他に、オルガンや仏壇、テーブルや椅子、衣装ケースなど思いのものを自由に過しやすいように置かれています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いや異臭には気をつけています。換気を行い消臭剤など使用しています。また、温度調整はその都度利用者の方へ聞きながら、希望に沿って調節しています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れる ように工夫している	建物内部は、本人が自立できるように段差解消や 手摺り、自動電灯消灯の設備などがあり安全に過 せるようにしてあります。	
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	混乱や失敗が出来るだけ起こらないように、その 都度声掛けや誘導・見守りを行っています。	
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	建物の外に自由に入出入りが出来て菜園や散歩の行 き来きや、屋外でレクリエーションや体操ができ るようにベンチや腰掛があり楽しまれています。	

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		回答
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない

項 目		回答
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	② ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	② ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	② ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	② ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

1、認知症予防の為に毎日の日課として『頭の体操』を取り入れています。簡単な計算問題（足し算・引き算）や漢字の書き取りなどです。毎日9名全員で1時間程度ゆっくりと時間をとり職員が付き添いながら一緒に行っています。はじめは「しません」と言われていたT様も最近ではすすんでされるようになり楽しんでおられるようです。2、以前に比べ公用車が2台になり、1台が病院受診などで居ない場合でも入所者の方で緊急に「家に帰りたい、買い物に行きたい」と要望があった時が安易に対応ができるようになりました。3、他のホームでは1日おきの入浴していると聞きますが、当ホームではほぼ全員の方が毎日入浴されています。皆さん自宅では夕方入浴されていたと話を聞き、家にいるときと一緒の感じで毎日夕方に入浴されています。4、町内のボランティアのレクレーションの先生が2週間1回の訪問をしながら、1時間程度で体操やゲーム・紙芝居や童謡などレクレーションを指導され入所者・職員と一緒に楽しんでいます。そこで教わった、ゲームや歌・体操などを日々のホームでのレクでも活かしています。